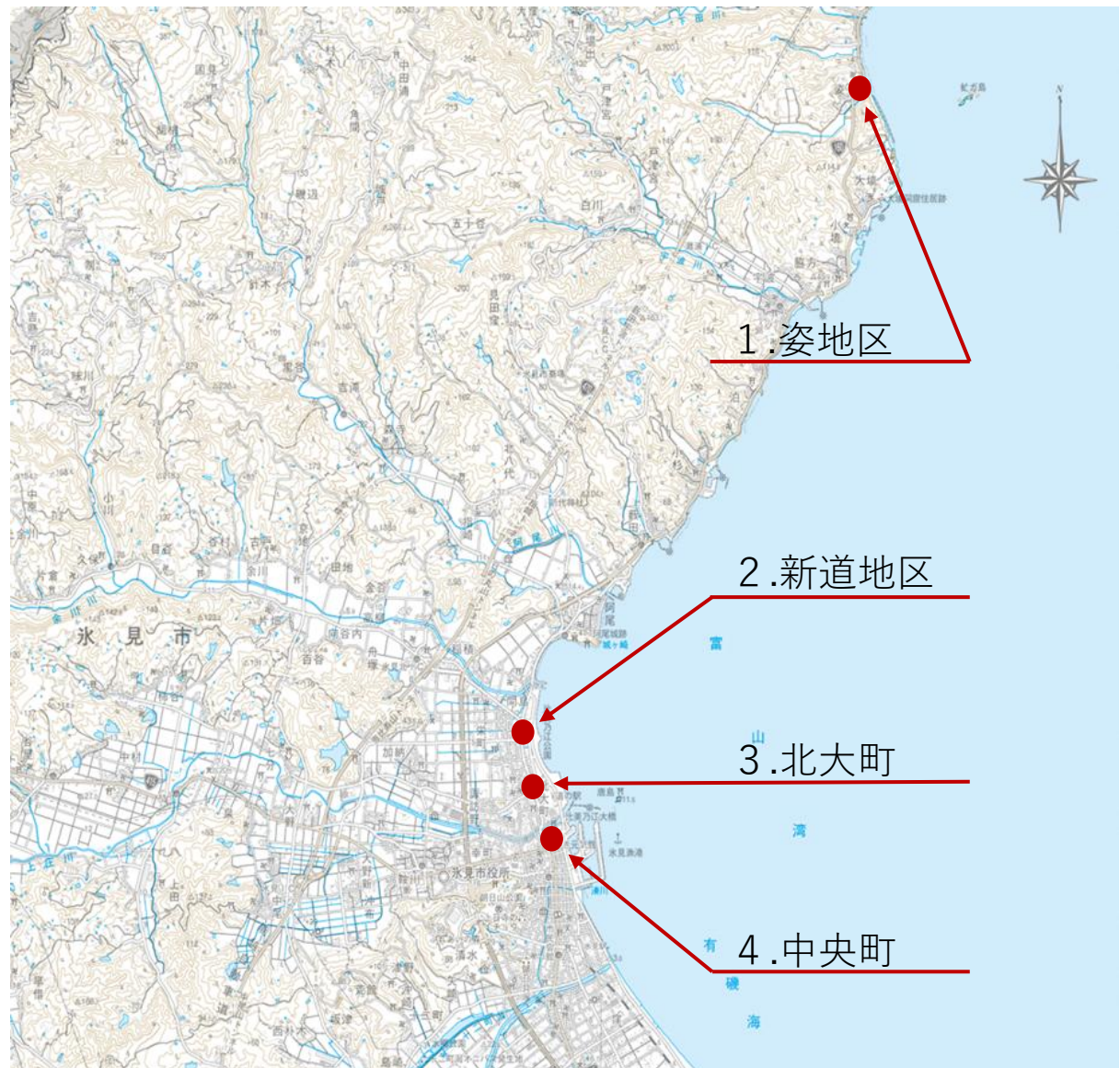


資料4 各被災地区の復興に向けての課題整理と方向性

地震による被害が甚大であった4地区において、これまで復興に向けた取り組みで見えてきた課題を整理し、まちづくりの方向性をまとめる



1. 姿地区

2. 新道地区

3. 北大町

4. 中央町

氷見市 R5.12月17,446世帯/43,205人⇒R7.12月17,215世帯/41,167人
 [世帯1.3%減/人口4.7%減]、公費解体(自費解体含)申請数984棟

1. 姿地区



2. 新道地区



3. 北大町



4. 中央町



都市機能誘導区域 (一部)
 居住誘導区域

防災建築街区は防火地域
 都市機能誘導区域
 居住誘導区域

取り組み状況

R6.7/17に姿復興の会を立ち上げ、毎月25日に復旧・復興に向けた取組みを協議している。

8/9(土)富山大学芸術文化学部院生による「解体跡地を活用した賑わいづくりの発表会」が開催され、「すがたまっぷ」「アブガシマテラス」「姿の花泊プログラム」を提案した。

10/18(土)臨時総会が開催され、アブガシマテラス案を進めていくこととした。

○アブガシマテラスをR8.2月から試作し、3/29(日)にはカフェ等を出店するイベントを実施して効果検証する。



都市計画マスタープランの主要な地域づくり方針

里海の豊かな自然環境の保全・活用を図るとともに、海越しの立山連峰の眺望景観と自然と集落が調和した景観を保全します。

見えてきた現状と課題

- 富山湾岸サイクリングコースで、虻が島越しの立山連峰が望める希少な場所が解体跡地となった。
- 高齢化が進む限界集落に震災による転出が増加し、集落活動の維持が困難になってきている。
- 隣接地に危険な老朽空き家が点在する。
- 国が管理する国道160号の安全対策や、県が管理する建設海岸護岸の散策に危険の無いような段差解消、消波ブロックの潜堤化等による海岸線の景観を向上させる対策も必要となる。

目指すべき方向性

姿地区の自然豊かな景観や周辺地域の歴史、食、温泉などの地域資源を生かした交流人口の創出や移住者を確保するため、解体跡地の多様な暫定活用を探るとともに、空き家を活用した移住者等の受け入れ体制を整える。

取り組み状況

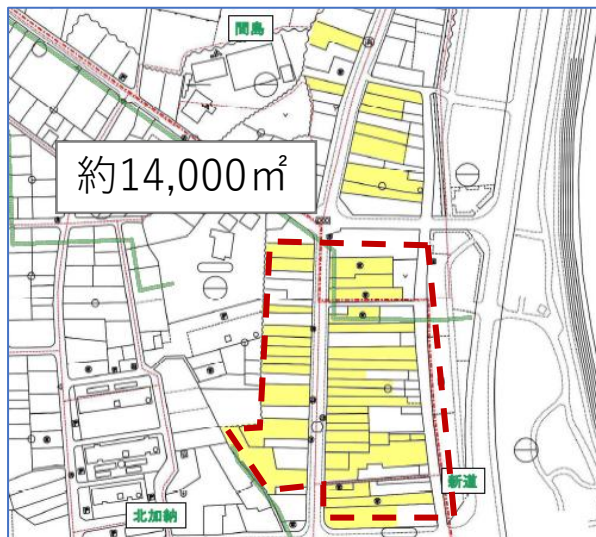
R6.10/5とR6.12/21に区画整理の概要や課題、進め方等を解説した「土地区画整理事業セミナー」を開催した。

R7.2/22とR7.5/1に地区の課題や将来に望む地区の姿を考える「復興ワークショップ」が開催された。

10/31(金)共有名義解消に向けた意見交換会を開催した。

12/13(土)に間島、12/20(土)に新道でそれぞれで解消に向けた地権者の同意があった。未相続である場合は早期に登記完了するよう依頼した。

3/3(火)復興まちづくりに向けた意見交換会を開催する。



都市計画マスタープランの主要な地域づくり方針

海越しの立山連峰の眺望景観や、ひみ番屋街、比美乃江公園と一体となった賑わいの空間づくりとともに、ゆとりある住宅地として集落環境の維持を図ります。

見えてきた現状と課題

- 市内で最も集積し、海越しの立山連峰を望み広大な比美乃江公園に隣接した場所が解体跡地となった。
- 液状化対策範囲に位置し、最初の実証実験地区で、隣接地には災害公営住宅が整備中である。
- 住民のつながりや空き地の利活用を求める声が多い。
- 解体跡地の区画を横断する共有名義地の解消に向け、未相続の解決に時間を要する場合がある。
- 土地利用が東西方向に細長い長屋スタイルであったため、住宅地とするには区画整理が必要となる。

目指すべき方向性

新道地区の自然景観等を生かした良好な居住環境や広大な土地を利活用した交流を創出するため、解体跡地を住民や来訪者の憩いや癒しの場として暫定活用するとともに、区画整理の推進や一体的な土地開発に向けての検討を進める。

取り組み状況

10/29(水)加納・池田町役員に「北大町まちなみ再生構想」を説明した。

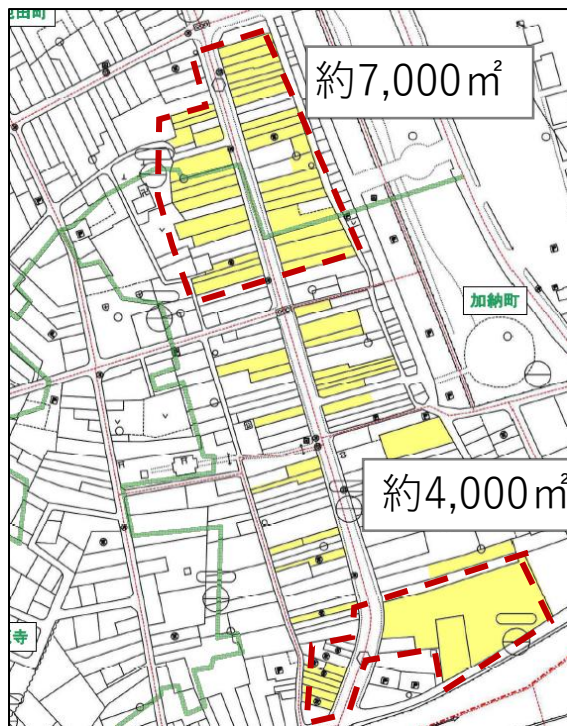
12/1(月)加納町、12/2(火)池田町の役員と復興に向けた意見交換会を開催した。

地区ごとにまちの「いま」と「これから」を考える座談会を開催している。

加納町 池田町

第1回 2/8(日) 2/14(土)

第2回 3/14(土) 3/14(土)



都市計画マスタープランの主要な地域づくり方針

利便性が高い環境を活かし、空き地・空き家の利活用の促進や民間開発の適切な誘導により、誰もが安心して暮らしやすい良好な住環境の形成を図るとともに、海越しの立山連峰の眺望景観や歴史的な街並み景観など、多様で魅力的な景観を保全・創出します。

見えてきた現状と課題

- 地区の東（海）側に市内で最も集客力のあるひみ番屋街がある。番屋街オープン時には、この地を氷見の「ソラマチに」といった地元意見もあった。
※ソラマチはスカイツリーのふもとに広がる商業施設
- 液状化対策範囲に位置し、隣接地には災害公営住宅が整備中である。
- 祭りの継承や地区の特色を活かしたまちづくりを求める声が多い。
- 借地していた住家も多く、解体後は、元の場所での再建を断念している方も多い。
- くし目状に解体跡地が点在し、まとまったエリアがなく、土地利用が限られてくる。

目指すべき方向性

周辺環境との調和による快適な住宅地の再生やひみ番屋街との関連性を生かした周遊性の創出のため、解体跡地の活用によるコミュニティ維持や周遊性を高める暫定活用を進めるとともに、市景観計画にまちなみの統一的な基準や点在する跡地利用を推進する体制を整える。

取り組み状況

8/11(土)、9/22(月)、11/23(日)に地区の魅力や課題などを話し合う「中央町の復興まちづくり会議」を開催した。

復興まちづくり方針

ひらく・つなぐ・めぐる

みんなで作る中央町

方針を支える5つの将来像

- 1.にぎわいと出会いのあるまち
- 2.挑戦を後押しし合うまち
- 3.結び目となるまち
- 4.歴史と記録を継承するまち
- 5.地域の資源が循環するまち



見えてきた現状と課題

- 中心市街地で公共交通（路線バス）や高速道路からアクセスのよい場所が解体跡地となる。
- 事業継続する商店は別の地区や建物に移転して再建している。
- 祭りや歴史の継続を求める声が多い。
- 大規模な建築物の解体であり再開発であることから完了までの長期化が想定される。
- 解体や計画、整備状況に合わせ、短期や中長期の段階を踏んだ対応が必要となる。

都市計画マスタープランの主要な地域づくり方針

漁業文化やなりわい・まんがなどの本市の独自の資源を活かした、新たな回遊拠点の整備や、既存施設を含めた施設間の連携強化による魅力の創出、歴史的な街並み景観を保全しながら、空き地・空き家などのミニ再開発や都市基盤の整備、防災関連施設の機能強化を通じた、安全で良好な市街地の形成を図ります。

目指すべき方向性

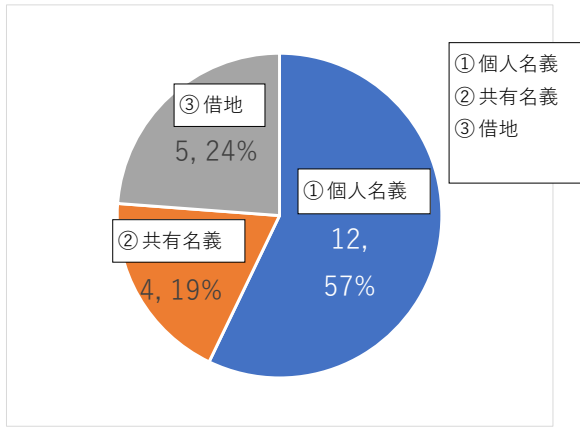
中央町の復興まちづくり方針を基にした賑わいやなりわいの創出、中心市街地の活性化のため、暫定的な仮設店舗等による新規参入や育成、イベント実施による効果検証を重ねるとともに、再整備に向けて様々な土地活用の方法を探る。

「土地活用等の意向調査」

加納町、池田町、新道地区の公費解体した転居者等に対し、今後の土地活用等についてアンケート調査した。

土地活用等の意向調査

問1 土地の利用形態は

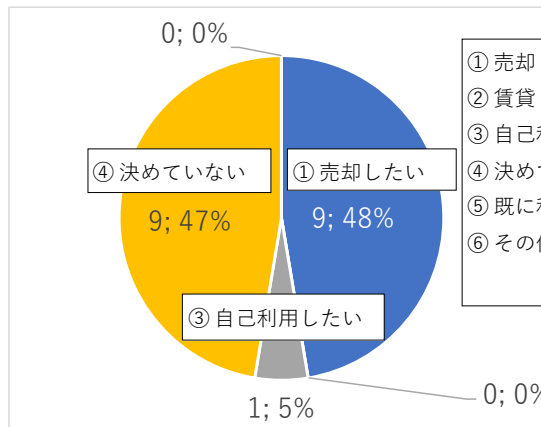


- ①個人名義
- ②共有名義
- ③借地

問2 所有地の今後の活用は

加納町9・池田町6・新道24世帯に郵送したうち、R8.1/22～2/10までに回答のあったもの

n = 21 加納町 4 池田町 3 新道 14

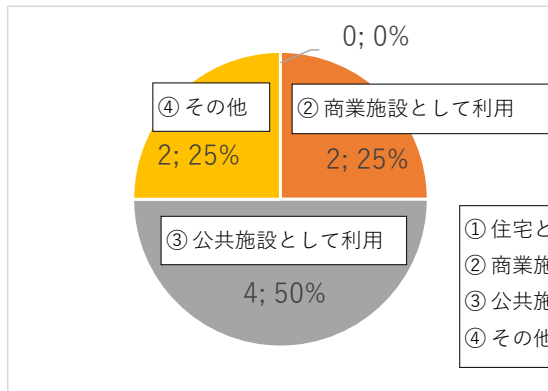


- ①売却したい
- ②賃貸したい
- ③自己利用したい
- ④決めていない
- ⑤既に利用している
- ⑥その他

「④決めていない」に記載されていた意見
本当は売却したい。でも売却するお金がない（固定資産税がとともじゃまです。家がないのに何か損している感じです）

③その他の意見
・借地のため、あらためて借りて何かする元気はありません
・借地のため
・本当は売却したい。でも売却するお金がない（固定資産税がとともじゃまです。家がないのに何か損している感じです）

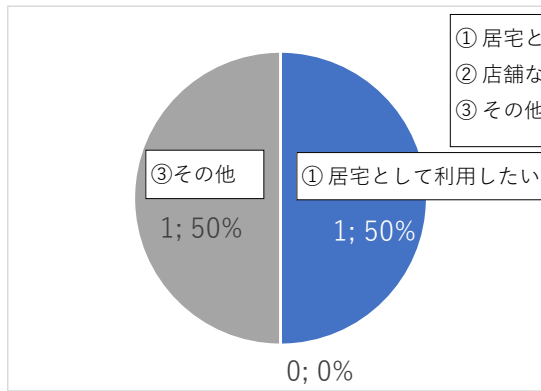
問3 問2で①売却したい、②賃貸したいを回答の土地の活用は



- ①住宅として利用
- ②商業施設として利用
- ③公共施設として利用
- ④その他

④その他の意見
・特にこだわりはない活用方法までは考えていない
・活用方法までは考えていない

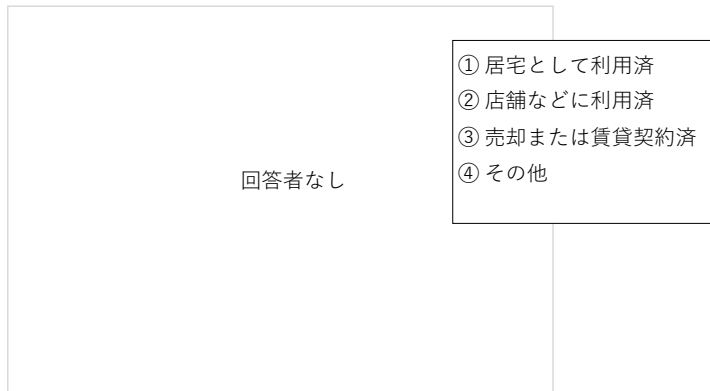
問4 問2で③自己利用したいを回答の活用方法は



- ①居宅として利用したい
- ②店舗などに利用したい
- ③その他

③その他の意見
(記入なし)

問5 問2で⑤既に利用しているを回答の活用方法は



- ①居宅として利用済
- ②店舗などに利用済
- ③売却または賃貸契約済
- ④その他

④その他の意見

問6 土地利用等に関してのご意見

・地震の被害が大きかった地域は無理に液状化対策で予算を使うより、建物のいらぬ農地推奨地域に指定すればいいのでは？さらに提案するならば、「輪島の千枚田」や「富良野市のラベンダー園」のように農地そのものが観光資源になるよう工夫できれば良いですね

・立山連峰を眺められる公共施設など
・更地になり今後の利用も考えていない。固定資産税を払い続けることになって困っています。地区全体で何等かの対応を早期に考えてほしい。

・土地の後ろ側（海側）に上下水道管を早く通してほしい。
・観光客など地元以外から来た人が利用できればいいと思う（番屋街など近いから）。

・転居済なので今後の利用等は考え中。
・まだ共有地問題が解決しておらず、今後跡地利用については共有地問題がすべて解決してから考えたい。

各地区の復興に向けた課題整理と方向性

地区	復興の方向性
姿	地域資源を生かした交流人口の創出や移住者の受け入れ促進
新道	自然景観等を生かした良好な居住環境や広大な土地を活用した交流の創出
北大町	快適な住宅地の再生やひみ番屋街との関連性を生かした周遊性の創出
中央町	賑わいやなりわいの創出、中心市街地の活性化

支援体制の
拡充と強化

各地区の計画（ビジョン）の作成 地域コミュニティの維持 計画等に基づくまちづくり活動の推進

【当面の取り組み】

- 各地区の課題解決に向けた活動
- 各地区の復興の方向性を落とし込んだ計画（ビジョン）を作成
- 将来的な土地活用に至るまで、暫定的な利用も含めた土地活用の効果検証を実施

各地区の計画や活動のアドバイザー

姿	富山大学芸術文化学部 横山研究室	北大町 加納町・池田町	富山大学芸術文化学部 藪谷研究室
新道	名城大学理工学部 萩原研究室	中央町	東京科学大学環境・社会理工学院 真野研究室



堤防に設置したベンチから虹ガ島を眺める



立山連峰を背後に虹ガ島をテラスから眺める

コンセプト

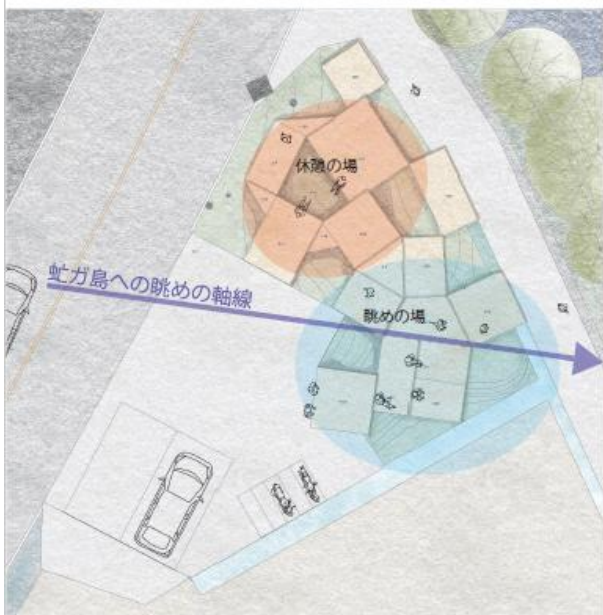
山連峰を背景に、富山湾に浮かぶ虹ガ島は、富山県最大の島であり、氷見市姿地区の象徴的な存在です。現在、地区内に、たえずみながら虹ガ島をゆっくり眺めることが出来る場所が、ほとんどなく、唯一眺望が可能な堤防も無機質で、景観を楽しむ場としては不十分な印象があります。そこで、堤防と地区の繋がりを強め、虹ガ島を望む「眺めの場」としての魅力を高めることを目的に、アブガシマテラスの提案を行います。具体的には、高さ・面積の異なるテラスを敷地の境界線や虹ガ島への景観軸に沿わせながら段状に配置することで、道路側のコンクリート舗装部と堤防を緩やかにつなげていきます。また、バイクや自転車でツーリングをする人など、姿地区以外の人にも立ち寄り、休憩できる場としても活用していきます。これら堤防周辺のテラス群を「アブガシマテラス」と名付け、地域の象徴的な風景を楽しむ場として、多くの人々に親しまれる場所となることを目指します。



段差によって多種多様な行為が生まれる



姿地区以外の人にも休憩の場になる



段差を活かした様々な行為

座る・移動する・話す・背もたれのように使う・縁に触れるなど、段差によって多くの行為が生まれる



2つの場

休憩の場

段差を活かして、座りながら休憩できる場所。外部の方とコミュニケーションを取ることや、井戸端会議ができるような広さで、ゆっくりとくつろいでもらえる場所。

眺めの場

虹ガ島を一望できる場所。虹ガ島を向くように、座りくつろぐことや、たえずむことを目的とした場所。「アブガシマテラス」を象徴とするような風景やテラスが連続している。

「アブガシマテラス」で行われる様々な行為

「アブガシマテラス」において地域住民の方々は、日常的に様々な使い方が出来ます。具体的な活用方法はワークショップで決めていきます。



ラジオ体操

犬の散歩

井戸端会議

BBQ

具体的な社会実験のスケジュール



まず、1月から2月中旬にかけて構造・建設方法の検討、2月から3月中旬にかけて建設を行います。そして完成後は5月末頃までに皆さんにご利用いただき、活用や運営方法をワークショップで検討していきます。年度末やGWにはイベントを開催し、虹ガ島の景観をPRします。



第1回北大町(加納町・池田町)まちづくり座談会 「北大町のいまを共有しよう」

震災による被害で、空き地の増加や地域のつながりの希薄化が進む北大町。
まちでの暮らしをより良くするためにも、いまの思いを共有しませんか？

池田町 2026 2.8 (日) 9:30~11:30
会場 池田町公民館(氷見市北大町 6-25)

加納町 2026 2.14 (土) 9:30~11:30
会場 加納町公民館(氷見市北大町 15)



まちづくり座談会とは？

北大町の住民や関わりのある皆さんが、まちに対する思いや未来の姿についてお話を氷見市と
富山大学 藪谷研究室が開催します。住民の皆さんの思いをまとめ、まちの未来像と一緒に考えていきます。

まちづくり座談会の今後の流れ

今回 第1回 「北大町のいまを共有しよう」
まちづくり座談会 まちでの暮らしの不安や課題、思い出やまちの好きなどを共有する会です。

第2回 「北大町のこれからを考えよう」
住民の方が想像する北大町の未来や、そのための取り組みの方向性を話し合う会です。
池田町 2026.3.14(土) 9:30~11:30 加納町 2026.3.14(土) 13:30~15:30

2026年度以降 まちづくり座談会で出てきた取り組みを実践していく予定です。

第2回からの
ご参加も大歓迎

第2回北大町（加納町・池田町）まちづくり座談会

「北大町のこれからの考えよう」

震災による被害で、空き地の増加や地域のつながりの希薄化が進む北大町。
まちでの暮らしをより良くするためにも、未来への思いを共有しませんか？

池田町 2026 **3.14** (土) 9:30~11:30
会場 池田町公民館(氷見市北大町 15-14)

加納町 2026 **3.14** (土) 13:30~15:30
会場 加納町公民館(氷見市北大町 6-25)



第2回まちづくり座談会の内容

第1部 授業成果発表会
「北大町（加納町・池田町）の公費解体跡地の活用方法の提案」
富山大学の大学院生が考えた北大町（加納町・池田町）の公費解体跡地の2つの活用案を発表します。



提案 1: まちを繋ぐ仮設商店街



提案 2: 地域住民を結ぶ、組み替えられる交流の場

第2部 グループワーク
「まちの未来の思いを共有しよう」
北大町が将来どんなまちになってほしいか、どんなまちなら住み続けたいかを共有します。



第1回北大町（加納町・池田町）まちづくり座談会が開催されました

座談会では、まちの現状（北大町が抱える課題など）と魅力（好きなどころなど）について話し合いました。
予想を超える多くの方にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。まちへの強い思いや愛着が語られ、
「小さなことからやっぺいこう」という前向きな意見が印象的でした。話し合われた意見の一部をご紹介します。

池田町

日時：2026年2月8日（日）
参加人数：22名



まちの現状

1. 空き地の維持管理の負担
例：空き地となった場所の草刈りが大変
2. 地域コミュニティの運営難
例：世話役の人がいない
3. 集まる場所の不足
例：会える場所が欲しい

まちの魅力

1. 安心できるまち
例：ご近所付き合いが残っている
2. 老人会が活発
例：週に3~4回は集まっている
3. 獅子舞
例：獅子舞が活発である

加納町

日時：2026年2月14日（日）
参加人数：16名



まちの現状

1. 空き地の増加
例：空き地の所有者がわからず活用が困難
2. 道路・側溝の被害
例：歩道と土地の間の側溝が危ない
3. 町内活動の維持が困難
例：人が減り、個人の負担が増えた

まちの魅力

1. 景色の良さ
例：海越しの雪が被った立山がとても綺麗
2. 散歩に良い環境
例：散歩コースがある
3. 人の良さ
例：気軽に声をかけあえる

今後の活動について

今年度の座談会で話し合った内容をもとに、
来年度はできることから活動に繋げていきます。

まちづくり
座談会

2025年度



活動

2026年度

ご回答をお願いします

北大町（加納町・池田町）にお住まいの皆さまへ

1月に「北大町の震災復興に向けたアンケート」を全戸配布いたしました。
未回答の方は、右のQRコードから、
ぜひご回答お願いいたします。



▲こちらから

北大町
第2回まちづくり
座談会チラシ

氷見・中央町復興まちづくり方針

2026年
2月発行

ひらく・つなぐ・めぐる みんなで作る中央町



多様な「当事者」たちによる、進行形の復興方針づくりを —氷見・中央町の復興の経緯と現状、そして未来—

2024年1月1日に発生した能登半島地震。氷見市中央町にも大きな被害がありました。多くの家屋が解体されて更地となり、ビル2棟もこれから公費解体の見込みで、街の景色が大きく変化しています。慣れ親しんだ景色が変わることへの不安を抱えながらも、地域の未来を話し合っていることと立ち上がったのが「中央町復興まちづくり会議」です。この会議は、氷見市中央町商店街振興組合を主体に、新町町内会・今町町内会の協力を得て開催しています。そして、東京科学大学の真野洋介先生をアドバイザーに、真野研究室の皆様にも力添えいただいております。

中央町の復興の「当事者」は、じつに多様です。会議には、中央町の住民や店主はもちろんのこと、商店街を利用する近隣の方、市内外在住で中央町に関心のある方、復興支援を行う学生、氷見市職員など、幅広く参加いただいています。中央町が、暮らす人のみならず、隣接地域の人にとっても、市全体にとっても重要な役割を持っていることが分かります。

この会議でいただいた声をまとめたものが「中央町復興まちづくり方針」です。解体跡地の活用についてはもちろんのこと、エリア全体の価値や魅力を再確認し、これからの方針を示したものです。今後、この方針をベースにして、復興のアクションを進めていきます。タイトルに「みんなで作る」と冠しているように、これを読んで関心を持ってくださった方も、この街の「当事者」です。ぜひ手を携え、この街の将来をより良いものに進めていきましょう。



被災によって変わる中央町の姿

- 2025年
- 8/11 **まちづくり会議を重ねてきました**
第1回 中央町の現在と将来像を話し合おう
前半は、会議発足の経緯、地域未来ビジョンを描くことの重要性が共有されました。その後グループに分かれ、地域の現状や魅力、「中央町がどうなって欲しいか」「どうなって欲しくないか」について話し合いました。
 - 9/22 第2回 公費解体後の「暫定利用」について考えよう
跡地の本格的な活用に至る再生過程についてお話を聞いた後、第1回で話し合ったことを踏まえ、公費解体後の更地について、どのような暫定利用の道があるのか、まちに欲しいものを交えながら意見を出しました。
 - 11/23 第3回 目指す方針を描き、具体的な取り組みを考えよう
この時点でのまちづくり方針を共有し、内容に中央町らしさが反映されているか、意見を交わしました。その後、防災建築街区ビルの解体が始まるまでに行うべきこと・行いたいことを募りました。
- 延べ65名（運営スタッフ、協力者を除く）の方が参加しました！



「たくさんの方にお集まりいただきありがとうございました。」

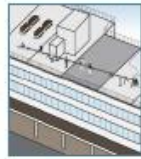
電子作成
現在

解体までにみんなで取り組んでみたいこと

家屋の解体にともない中央町を離れる人も多く、情報共有や意見交換もこれまで通りにはできなくなります。また、景観が大きく変化する前に、記録を取っておくことも求められています。ここでは、第3回まちづくり会議で話し合った、解体が完了するまでに行いたい取り組みを紹介します。



模型の制作
この場にあったビルを思い出せるように、みんなで模型を作り、形として残す。



屋上イベント
普段は住民の方以外が立ち入れなかった屋上でイベントを行い、思い出を語らう。



地域新聞発行
中央町を離れてしまった人にも情報を共有できるように、中央町の新聞を作る。

解体開始

＼その他の意見／

「中央町での生活や生業インタビュー」「残すべき価値の明確化、共有」「コンペみたいに具体的な提案の公募」「権利関係の明確化」「防火地域の解除等の検討」「会議の場だけではないラフな話し合い」...

解体終了

解体後はどうなるの？

暫定利用

暫定利用について

解体跡地の恒久的な活用を実施するまでの期間、エリア価値の維持・向上を目的に、一時的な活用を試みながら、今後の活用の在り方を模索する取り組みが「暫定利用」です。中央町においても、まずは公費解体跡地を暫定的に活用していきます。



復興まちづくり会議で出された意見を踏まえ、解体跡地の暫定利用のイメージを絵にまとめました。



本格活用



これからも中央町復興まちづくり方針をもとに話し合いを重ね、より具体的な計画を立て、行動に移していきます。暫定利用・本格活用に向けて、**みんな**で考え、明るい未来を描いて実現していきましょう。

水見・中央町復興まちづくり方針 ひらく・つなぐ・めぐる みんなで作る中央町

方針を支える5つの将来像

1. にぎわいと出会いのあるまち
2. 挑戦を後押し見守るまち
3. 結び目となるまち
4. 歴史と記憶を継承するまち
5. 地域の資源が循環するまち

震災を乗り越え、中央町は人や資源が交差する「水見の結節点」としての再生を目指します。5つの将来像は、「ひらく」「つなぐ」「めぐる」の3アクションを支え、噛み合う歯車のように連鎖・運動しながら相乗効果を生み出します。いたるところで各要素が重なり合い、運動していくことで、中央町の新しい未来を描き出していきます。



3. 結び目となるまち

キーワード：周辺地域とのつながり／観光と暮らしのつながり／人の交流
人や資源が結びつく中央町



中央町は、海と山、観光と暮らしの拠点を結び、地理的に重要な中心地に位置しています。移住・創業・食・交流など多様な活動が交差し、内外の人や資源が結びつくことで、新たな繋がりと生態系が形成されつつあります。

新たな価値を創造する場所

中央町は、地理的な結節点であると共に、多様な主体が結びつく「結び目」です。移住者と地元の住民、観光と日常の暮らし、そして海と山の恵み、地域の資源や人々を、このまちで丁寧に結び合わせる。震災によって、繋がりの大切さを再認識させられた今だからこそ、中央町は、水見全体の「結び目」となり、「新たな価値を創造する場所」を目指します。

皆さんの声をもとに描いた将来像

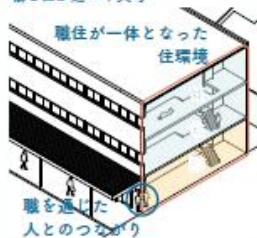


「会議から出たキーワード」
「食と観光のハブとなるような場所」、「中山間地とまちをなかに繋ぐ」、「駅・商店街・番屋街の連続性」、「宿泊施設や新たなモビリティの拠点」、「水見から輸出してしまっただけで戻ってこられる場所」、「まちづくり・地域交流への敷居の低い入口」

1. にぎわいと出会いのあるまち

キーワード：にぎわい／交流／歩いて楽しむ／観光

職と住が近い中央町



中央町には商店街があり、職住一体の家屋が多いことから、生活と商売の境界がゆるく、混ざりあう環境があります。買い物という日常行為の中でも、顔の見える関係性や偶然的な出会いが生まれ、人の営みと商いが自然に交わってきました。専業主婦の変化によって生活圏が広がり、こうした役割が弱まりつつあるものの、大型複合施設などにはない出会いが中央町に残っています。

訪れて、楽しいと思えるまち

震災によって多くの風景が失われましたが、私たちが守りたいのは、かつてこのまちに溢れていた「行けば誰かに会える」という期待です。商店街へのアクセシビリティの向上や訪れるきっかけ作りなどを通じて、場所や人との出会いを誘発し、「訪れて、楽しいと思えるまち」を目指します。

皆さんの声をもとに描いた将来像



「会議から出たキーワード」

「このまちに来たら楽しい・なにかに会えるという状態」、「観光客も住んでいる人も楽しめる」、「まちのシンボル（時計台や展望塔）がある」、「多様な人が集まれる」、「小さな企業が集積し、歩いて暮らせる」、「歩半分離りで安全」、「交通の結節点」

4. 歴史と記憶を継承するまち

キーワード：歴史・文化の継承／祭礼／愛着・シックプライドの醸成

記憶を継承する中央町



中央町には、伝統的な町家や防災建築街区のビル群、長年受け継がれてきた祭事、家々の営みが積み重ねてきた歴史があり、目には見えない「記憶」が息づいています。しかし震災により、その記憶が染み込んだ風景が失われようとしています。

新しいまちの中にこれまでの「記憶」が溶け込んだ風景

解体される建物から古材や建具を取り出し引き継ぐ取り組みや、失われゆく記憶を継承していく取り組みなどを通じて、まちの歴史をアーカイブや物語として編み直していく。過去をただ懐かしむのではなく、「新しいまちの中にこれまでの「記憶」が溶け込んだ風景」を目指します。

皆さんの声をもとに描いた将来像



「会議から出たキーワード」

「風景を残し、歴史を残す」、「歴史を活かしたまちづくり」、「祭りや行事をできるだけつなげていく」、「時代にあわせて変化しながらも、過去を思い出す」、「写真や動画、語りなどで記憶を引き継ぐ」、「これからの水見を担う世代の想いを大切に」

2. 挑戦を後押し見守るまち

キーワード：新しい挑戦／新規出店／移住／教育

次々に新規開業が起る中央町



中央町は古くから商業の基盤を持ち、創業支援や「うみのアパルトマルシェ」を契機に移住者の新規出店が増加しました。週2~3日の営業や副業的な店舗運営などの柔軟な商売スタイルこそが、この動きを支える土台となっています。

水見を先導する場所

震災を経て、転居者の増加など、環境が変わりゆく中でも、新しいことに挑む人を後押しし、その歩みを温かく見守る「寛容な場所」であり続けたい。中央町が、移住者や創業者の「最初の一歩」を支える場所であり続け、昔も今も多様な生業が次々と芽吹き、「水見を先導する場所」になる未来を目指します。

皆さんの声をもとに描いた将来像



「会議から出たキーワード」

「商店街としての特色を残した移住促進」、「やる気のある人・活動意欲がある人が集まる」、「盛り上げたいと思っている人を応援できる」、「仮設店舗などで暫定利用時にもにぎわいを維持する」、「チャレンジショップが並ぶ」、「地域での学びや実践の場」

5. 地域の資源が循環するまち

キーワード：空き家活用／新陳代謝／地域資源／循環／自然

既存の建物を活かす中央町



震災前の中央町では、リノベーションによる店舗の開業が活発に行われてきました。また、ひま里山杉の活用を促す活動もあり、今ある物を活かす動きが根付きはじまりました。震災後には、解体される建物から古材を救出し、地域の資源として継承する活動も行われています。

水見らしさと自然が調和する、持続可能な暮らし

震災は多くのものを奪いましたが、同時に「過剰な消費」から「豊かな循環」へと視点を変えるきっかけをもたらしました。今ある資源を大切に使い、自然と共生しながら次世代へ繋いでいく。中央町は、「水見らしさと自然が調和する、持続可能な暮らし」を目指します。

皆さんの声をもとに描いた将来像



「会議から出たキーワード」

「すべて新しくせず、古いものを活用する」、「古材を使い断片的にも歴史を残す」、「空き家を活用する・DIY文化」、「空き家を活かしながら自然と接することができる都市農園やビオトープの整備」、「資源循環による人と自然の共生、持続可能な考え方」